

# 市民がつくる「環境首都・北九州」タウンミーティング

## 【パネルディスカッション】

コーディネーター	眞鍋和博	(北九州市立大 地域創生学群 教授)
パネリスト	福丸 清生	(北九州市衛生総連合会 会長)
	梶井 綾乃	(特定非営利活動法人 里山を考える会)
	中村 哲也	(北九州市自然環境保全ネットワークの会)
	三根 康子	(ひびき灘開発 株式会社)
	北橋健治	(北九州市長)
	松岡俊和	(環境局長)

司会： お待たせいたしました。これより、パネルディスカッションを始めます。

まず、はじめに、コーディネーターおよびパネリストの皆様をご紹介させていただきます。

本日、コーディネーターを務めていただきますのは、

① 北九州市立大学 地域創生学 教授／眞鍋和博様です。

続きまして、パネリストの皆様をご紹介いたします。

②北九州市衛生総連合会 会長／福丸清生様。

③特定非営利活動法人 里山を考える会／梶井綾乃様。

④北九州市自然環境保全ネットワークの会／中村哲也様。

⑤ひびき灘開発株式会社／三根康子様。

⑥北九州市長／北橋健治。

⑦北九州市環境局長／松岡俊和。

以上の皆様で、パネルディスカッションを行っていただきます。

これよりは、コーディネーターの眞鍋様に進行をお願いしたいと存じます。

それでは、眞鍋様、よろしく願いいたします。

## 【 ①活動紹介 】

眞鍋： みなさん、こんばんは。北九州市立大学の眞鍋と申します。

今回のコーディネーターを務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。  
先程、北橋市長からご講演をいただきました。

OECD からのグリーン成長モデル都市の選定をはじめ、北九州市は環境先進都市として国内外から認知が高くなってきているが、その源は「市民環境力」であるとともに、今後の成長にも「市民環境力」が重要であるというお話でした。

ご講演の中でも、北九州市の特徴的な市民環境活動が紹介されていましたが、本日は、地域の団体、あるいは NPO、企業など様々な立場で環境活動に取り組まれている皆様にお集まりいただいております。

まず、はじめに、今日のパネリストの皆様、日頃の活動についてご紹介いただき、その後に、活動にあたっての課題や抱負などについて、お話を進めてまいりたいと思っています。

それでは、トップバッターは、まち美化など地域主体による環境活動を担っておられます、北九州市衛生総連合会の福丸会長にお願いしたいと思います。

では、よろしくお願いいたします。

福丸： ただ今、ご紹介いただきました、北九州市衛生総連合会の福丸です。

はじめに、北九州市衛生総連合会について、ご説明したいと思います。

衛生総連合会は、北九州市の誕生に伴い、旧五市が独自に行ってきた活動の連携を図るため、昭和 38 年 10 月に旧五市各区衛生協会連合会が団結して誕生しました。

当連合会は、本年、創立 50 周年を迎える、市内最大の市民団体です。

当連合会は、健康で文化的な市民生活を実現することを目的として活動しています。その活動は、環境保全と健康づくりを 2 本の柱として、これらに関する普及啓発や実践活動を行っています。

ちなみに、活動の財源は、会員の会費、市からの補助金と委託料によって賄われています。

本日は、「市民がつくる環境首都」がテーマなので、当連合会が行っている主な 3 つの環境保全活動をご紹介します。

まず、1 つ目として、ごみステーションの維持管理活動があります。約 3 万 3 千ヶ所あるごみステーションは、皆様の一番身近にある環境問題に関する場所ではないでしょうか。ごみステーションの場所の確保や清掃などの管理は、ごみステーションを利用する地域の皆さんが主体となって行っています。私たち連合会は、そうした地域の活動を支援するための清掃用具の提供などを行っています。

また、カラス等によるごみ散乱防止に役立つため、防鳥ネットなどの利用を呼びかけています。市が行う防鳥ネットの無償貸与や購入補助の手続きを取りまとめています。これが、防鳥ネットと集積容器の写真です。防鳥ネットは、このよ

うにネットの縁を、ごみの下に巻き込むように使用すると、カラス対策に非常に効果的です。防鳥ネットや集積容器の補助金については、区役所内にある各区の衛生協会連合会の窓口にご相談ください。

2つ目として、まち美化活動があります。

当連合会は、市などと共同で、毎年、春と秋に大規模なまち美化活動を開催しています。

具体的には、毎年5月・6月に「“クリーン北九州”まち美化キャンペーン」、10月には「市民いっせいまち美化の日」を実施しています。春のキャンペーンには約3万人、秋には約9万人の方々が参加しています。

また、地域の集まりや町内会の回覧などで、継続的にPRしてきた結果、さまざまな場所で、ボランティア清掃が行われようになってきました。

このほかに、不法投棄がよく行われる場所を中心に、不法投棄防止のパトロールを行っています。このパトロールは、地域の防犯や子どもたちの登下校時の安全確保にもなるなど、相乗効果も出ています。

また、タバコや缶やペットボトルなどがよく捨てられている場所に、ポイ捨て防止の看板を設置し、ポイ捨てのない環境づくりも進めています。

これがまち美化活動の様子です。皆さんから向かって右側が若松区の岩屋海岸、左側が八幡西区の金山川の清掃の様子です。環境首都を支えるのは、「清潔で美しいまち」だと、私は考えています。

明後日の6日は、「市民いっせいまち美化の日」です。皆さんもご自宅や会社の周りなど、身近なところでも結構ですので、ぜひご参加をお願いします。

最後の活動として、ごみの減量化・資源化の活動があります。

ごみを減らすためには、リサイクルできるものは、きちんと分別することが大切です。ごみとして残ったものは、例えば、生ごみはしっかり「水切り」をするなど、ごみが少なくなるような工夫について、広くPRを行っています。

それではまず、分別収集の啓発です。

地域の集まりや機関紙などで、かん・びん・ペットボトル、プラスチック製容器包装の分別の説明などを行っています。

また、新聞や雑誌などの古紙の集団資源回収ですが、制度が始まる当初から、各町内会などに積極的に参加するよう呼びかけています。

その結果、平成24年度には、約2万9千トンの古紙が資源回収されました。

しかし、燃やされる家庭ごみには、まだ新聞や雑誌以外の紙類が多く含まれています。その割合は、家庭ごみの約8%を占めるということです。具体的には、包装紙や紙製の箱、カレンダー、ハガキなど、たくさんの種類があり、「雑紙」と呼ばれています。

今年は、当連合会も創立50周年を迎えますので、これを記念して、今月、「市

民いっせい雑紙回収グランプリ」を実施します。皆さんも、雑紙のリサイクルをお願いします。

これは、ごみステーションでの分別の啓発活動の様子と、保管庫での古紙回収の様子です。古紙回収の保管庫は、市内の市民センターのほとんども置いていません。

また、各町内で古紙回収を行っている町内につきましても、町内の保管庫を独自に置いてありますので、皆さまもお気軽にご利用ください。

以上で、北九州市衛生総連合会の活動の説明を終わります。

今後とも、地域の皆様と共に活動して行きますので、ご協力をお願い致します。ありがとうございました。

眞鍋： ありがとうございました。

市制と同じですね。50周年ということで長い歴史を持った活動かなと感じました。しかも、まち美化いっせい運動というのは、参加者が9万人と非常に多いと感じました。

次に、北九州市の環境学習・交流拠点である「環境ミュージアム」において、ガイドとして活躍されていますNPO法人里山を考える会の梶井（かこい）さんをお願いします。

梶井： こんばんは。特定非営利活動法人里山を考える会の梶井綾乃です。よろしくをお願いします。

今回のチラシにも唯一ふりがなをつけていただきまして、梶井と読みます。つまらない質問ですけど、皆さん「梶井」という漢字をご存じでしたか。初めての方が多いいと思います。北九州市に無い名前です。ちなみに私はどこの出身だと思えますか。

鹿児島です。せっかく皆さんとお会いできた機会にこの漢字を覚えていただけたらと思います。よろしくをお願いします。

話を戻して団体の紹介をします。「里山を考える会」ということですが、皆さん「里山」という言葉をご存知でしょうか。おそらく、今日集まっておられる方は知っていると思います。都会と大自然の間にあつて、人と自然が共存してきた場所です。お互いに助け合うこの考え方を、持続可能な生活へ生かすことを大切にする、それが団体のコンセプトです。

自然の中での活動や都市での活動、そして人やまちづくりなど、つなぐ活動を行っています。そのフィールドとして、八幡東区東田に「北九州市環境ミュージアム」や「東田エコクラブ」、小倉北区に「山田緑地」をフィールドとして持っています。私は、このなかでも北九州市環境ミュージアムにおります。

ここからは、私のしていることを中心に団体の紹介をします。

北九州市環境ミュージアムは来られたことがありますか。館では北九州市の歴史と環境のつながりを時系列で紹介しています。

北九州市は面白いですね。ネタと言うか話題に事欠かない街だと思います。そうやって知ったことを子供に伝えたり、逆に訪れてくれる年配の方に話を聞いたり、そんな毎日を過ごしています。

体験を通じて環境を考えたほうが面白いということで、ワークショップも行っています。何か物づくりをしたり、ゲームをしたり、伝え方も日々模索しています。

最近、最も面白いと思っている業務は、「分かりやすく伝える」「未来を想像させる力をのばす」ということです。このきっかけになったのは、館で新しくはじめたプログラム「北九州 地球の道」です。

私自身の好きなことでもある演劇の手法を使った環境教育のプログラムです。今回皆様のお手元に、東田のコミュニティペーパー「シェアボリューム 3」を配らせていただきました。この中にも載せていますので、後程ご覧になってください。

このプログラムは、もともと北海道富良野にある富良野自然塾、ここは塾長が北の国からの脚本家倉本聡さんですけど、そこで行なわれていたものを北九州版として作成したものです。

私、北海道富良野まで研修に行きました。演劇の手法、表現方法使うということで、話し方から目線やの使い方などたくさん学びましたけど、かなり難しく研修中の日々は泣かされていました。そのおかげで身についたものもたくさんありまして、ぜひご来館していただきたいと思います。

このように、私の好きなことを使って、今回は演劇ですが、環境について伝えるのが日々の活動になります。好きなこと、得意なことを活かして仕事ができることにやりがいと喜びを持ったスタッフが、私以外にもたくさんいますので、ぜひこの10月エコマンズの機会に会いに来ていただけると嬉しく思います。

ご静聴、ありがとうございました。

眞鍋： 梶井さん、どうもありがとうございました。

演劇を使って環境の学習をするというのは、面白く楽しんでやれる学習の方法ではないかと思いました。

それでは、次に、北九州市には、北九州市自然環境保全ネットワークの会（自然ネット）という多様な主体で構成された組織が、幅広い自然環境の保全に取り組まれています。その事務局のスタッフとして活躍されている中村さんお願いします。

中村： 皆さんこんばんは。北九州市自然環境保全ネットワークの会の中村です。

今日は自然ネットの代表ということで活動を紹介させていただきますけども、私は自然ネットの運営サポーターとして、総会、講演会の開催、情報誌の発行、メルマガの発行、運営会議など自然ネットの運営に携わっています。

まず、北九州市自然環境保全ネットワークの会は、長すぎるので略して自然ネットといますが、自然ネットというのは、北九州市の生物多様性戦略を推進して管理する組織です。

市内では、自然環境分野で個別にさまざまな団体、組織、行政、市民などがかわって活動しています。自然ネットはそれらのパートナーシップの考えのもとにつながりを持たせて、自然環境の保全や育成、利用や整備に貢献することを目的として結成されたネットワーク組織です。

自然環境の保全に取り組む政令市では初となる組織です。

結成は平成 18 年、事務局は環境局の環境未来都市推進室に置かれています。

概念図を見ると、市民・NPO、市・事業者・学識経験者などがつながりあったイメージです。行動の共通テーマは、北九州市の自然をもっと知ろう、知らせようということで、現在の参加団体は、NPO36 団体、市民が 151 名、事業者 12 人、学識経験者が 13 名で構成されています。

自然ネットへの加入や退会は自由意志で行われています。

自然ネットの特徴ですけども、ここで強く言いたいのは、幅広く自然環境の保全に取り組む政令市では初となる組織です。

その中でとくに市民の会員がいますが、その方々は自然を守り、育てるための人材性の講座を 1 年間受講して、自然環境に対しての基礎知識を身に付けた方々で、自然環境サポーターとして会員登録されています。その方々が現在 151 名活動しています。

今回、自然ネットの活動紹介ということですが、自然ネットというのは先ほど申しましたように、企業、団体、個人が会員となっていますので、その各々の活動が自然ネットの活動というふうにも言えますが、ここでは自然ネットの会として、主催して行っている活動のみを紹介します。

まず活動としては、五つあります。総会・自然講演会の開催、情報の発信、月に 1 回の運営会議、自主事業の開催、会員が行う事業への開催協力などを行っています。

その活動内容の第一ですが、総会・自然講演会を開催をしています。

これは、年に一度総会に合わせて自然の各分野で活動される方々を招いて、自然講演会というのを開催していますけども、歴代いらっしゃった講師の方は、養老猛司さんをはじめ、昆虫家・写真家の栗林さん、あとはそうそうたる自然環境に

かかわるメンバーの方々に講演を頂いています。これは無料で聴けますので、会員でない方も興味がある方は参加をしてみても如何でしょうか。

続いて、行っている情報の発信ですけど、ネットの会員さんに向けて「自然ネットだより」という情報誌を年に6回お送りしています。その間を埋めるように、会員の活動への参加の募集、イベントの紹介、告知などをメールマガジンという形で送っています。この絵ではかわいい山羊が送っていますが、実はこのヒゲづら親父が送っていますけども、こういうようなイメージでメールマガジンを送っています。

次に、自主事業ですけども、これは年に1回会員さんの交流を図るため、あとは研修を目的として、先進的な取り組みをしている場所を訪れてその活動を体験したり見学したりする、先進地視察というのを行っています。

視察では、大分県竹田市の「竹楽」を体験したり、視察ではビオトープがオープンすることもありまして、その時に韓国まで遠征したりしています。

その視察で参加された会員さんの方とか、団体活動のヒントとなるものを持ち帰ってもらって、活動に役立てていただいています。

次に、市民参加型の自然環境調査も行っています。これは過去に調査を行った事例ですけども、子供や親子で楽しんで参加ができるメダカやトンボの生き物探しを行っています。このような調査は、参加することで皆さんに環境について考えてもらえるきっかけとなるようなことになると思います。

下の段は、若松区で道路工事にかかる場所に、カスミサンショウウオという両性類が生息してしまっていて、参加者を募ってサンショウウオを救助して引越しをさせる「サンショウウオ引越し大作戦」という活動を行っています。

先ほどのような在来種や生物についての活動も行っていますが、最近よく問題になっている外来種についても活動を行っています。例えば、外来種問題について広く知ってもらうために開催した「釣って食べてみよう外来魚」というイベントですけども、その名の通りブラックバス、ブルーギルを釣って、フライにして揚げてフィッシュバーガーにして食べようというイベントです。こうすることによってなぜ外来種が問題なのか、という啓発の意味を込めて行っています。子どもにとっては生きているものを殺して食べるので、今は命の授業などもありますけど、そういったものに通じるのではないかと思います。

外来種は捕えて殺されるだけではなくて、それを食べてしまうことが処理としては一番ではないかと思いますけど、なかなか定着しない活動です。

ここ1年、2年は、外来種についての活動舞台をひびき灘ビオトープに移して、ジャンボタニシの防除活動をやっています。このジャンボタニシも捕えて、佃煮や甘露煮、ガーリックソテーにして、ビオトープ名物として売り出したらどうかと思いますが、ガーリックソテーと言うのは洋風ですので、外来種を考えたとき

にどうかたと考えています。

口の中に入れるものですので、衛生面などをクリアにしないといけないという問題もありますし、手間に似合うのかということも大事な要素だと思います。捕まえられてしまうジャンボタニシの身になって考えてみると、食べることで道が開けてくるのではないかと思います。

最後に、正面のスクリーンのような会員が行う事業への開催協力も行っていきます。

駆け足でしたが、大きく紹介すると以上のような活動を行っていますが、自然ネットでは人と人、自然と人を結びつけるための活動とか、自然環境について考える、行動するきっかけとなる活動を、さまざまな立場の会員さんの協力のもとに行っています。

以上です。

眞鍋： ありがとうございます。自然環境保全、こういった啓発は難しいのですが、積極的、精力的にさまざまな活動をされていらっしゃると思いました。

次に、若松区は資源循環社会をリードするエコタウン事業や風力・太陽光などの次世代エネルギーの拠点となっています。

その取り組みを紹介するエコタウンセンターのスタッフとして活躍されているひびき灘開発の三根さんをお願いします。

三根： 皆さんこんばんは。

ひびき灘開発株式会社の三根康子です。

普段は北九州市エコタウンセンターで、たくさんのリサイクル工場やエネルギー施設の紹介を行っています。

まずは、当社の概要説明から始めたいと思います。

ひびき灘開発株式会社は、若松区ひびき灘地区で昭和 58 年から産業分野から出る廃棄物や家庭から出るごみを燃やしたあとの灰などを、最終処分場に安全に埋め立てる事業や土地分譲事業を行っています。

皆さん、最終処分場はご存知ですか。知らない方はいますか。最終処分場というのは、日々私たちの生活から出て来るごみを燃やしたあとに出てくる灰を埋め立てたり、工場から産業活動の中で出て来るごみも処分しなければなりませんので、安全に埋め立てる場所が必要となります。これが若松区の響灘埋め立て地にありまして、安全・安心に埋め立てる事業を行っています。

そこでできた土地に、現在では緑化活動を行いまして、木を植え、森を作って自然環境にも配慮する事業を行っています。

こういった処分場の技術や知識も活かしまして、現在では北九州市エコタウン



センターの案内業務に活かしているところです。

それから、ひびき灘開発株式会社では、北九州市エコタウンセンターと並んで、響灘ビオトープの管理・運営や現在では、太陽光発電事業も行っています。

では、当社の環境活動を紹介していきたいと思います。

今触れたとおり、緑化活動を響灘埋め立て地で行っています。北九州市が進める「100万本植樹プロジェクト」に協力して、埋め立て地内に毎年約1万5000本の植樹を地域の皆様といっしょに行っています。この植樹する苗木に関しては、自生する樹木の種を拾いまして苗木を育て植樹をやっているところです。

また、この植樹に利用する堆肥作りも行っています。この堆肥に関しましては、やはり捨てればごみになってしまうものを活用して、堆肥づくりを行っております。今まで捨てられていたもののうち、主に三つを使用して堆肥づくりを行っています。

一つは、若松区にあります、ひびき動物ワールドのカンガルーの糞。

二つ目は、大規模な温室で栽培しているトマトのわき芽。

三つ目は、街路樹を剪定したときの枝。これを利用して堆肥づくりを行います。こういった取り組み、堆肥づくりや埋め立て地での植樹に関しましては、北九州市が進める環境修学旅行の体験メニューとしてとても好評で、多くの学校や団体の皆様にご参加いただいております。

初めに述べたとおり、記念植樹の写真も撮っています。年々育った木の様子も写真を撮り学校に送る、こういった形で県外から訪れた学校にもこの北九州市に愛着を持っていただけるよう植樹メニューも好評で、今年もたくさんの学校が参加していただいているところです。

それから、今年の8月に稼働したのがこちらの太陽光発電事業ですけども、一般家庭で言いますと約600世帯分の電力を発電する発電事業も始めたところです。

それから、響灘ビオトープ、先ほどの自然ネットの方もおっしゃっていた響灘ビオトープですけども、行かれたことがある方は多いと思います。

今月で1周年を迎えます。こちらは、私たちが埋め立てを行っている廃棄物の処分場に、埋め立てた後、凹凸となった地形に湿地や淡水池、草原などの多様な環境を生み、いろいろな生物が生息するようになった場所です。

こちらでたくさんの希少な生物を見ることができますので、ガイド業務も行っております。ぜひ、今月は開園1周年記念のイベントも実施していますので、ご来園いただきたいと思います。

ここで私の活動拠点、北九州市エコタウンセンターです。エコタウンの紹介は市長からの話にもあったように、非常に有名なたくさんのリサイクル工場が集まる場所ですが、こちらで毎日いろいろなお客様をお迎えして、見学案内を行って

います。

私の環境活動というのは、見学に来られた皆さんに多くのリサイクル工場の取り組みや皆さんのご家庭で実践できる分別についてのことをお話しできたいいなということで、日々、御案内しているところです。

エコタウンに来たことがない方いらっしゃいますか。さすがに、市民環境力が高いですね。来たことがない方は、来週とか再来週にでも見学に来ていただけたら嬉しいと思います。毎日使っているものを分別して皆さんが出されていると思います。そういったものがたくさんリサイクル工場に運ばれ、どういうふうになっているのかというのを見ていただくことができます。

また、毎日何気なく使っている電気、これも大きな太陽光発電や風力発電事業を間近で見ることができますので、いろいろな気付きや毎日のアイデアにつながる部分が多いのではないかと思います。是非、来ていただいて、皆さんにはそういったものを見ていただき、これからの環境の関心はもちろん、学校や職場、家で3Rの実践や節電の実践につながる、記憶に残る楽しい見学案内ができればいいと思っています。

本当にたくさんの方が来られまして、環境修学旅行としてエコタウンにもやってきます。さらには小学4年生、今北九州市はとても面白い科目を設定しているのをご存知ですか。

環境体験科という科目があります。環境ミュージアムに見学に行ったり、エコタウンセンターに来たり、山田緑地、北九州の自然の素晴らしいところに見学に行ったり、体験をする時間を6時間設けていただく見学があります。あとは学校で少し事前自己学習を進める形で小学4年生がたくさんやって来ます。

小学生にはその時必ず宿題を出します。今日はじめて知ったことは家族の中で話題にあげて分別に協力したり、みんなで環境の知識を分け合う、ということをお願いしたいということで、毎日私たち6人でやっていますが、日々、見学者をお迎えしています。

普段は学校の見学だったり、研修生ということで海外からのお客様だったり、たくさんの方が来られるわけですが、なかなか家族連れというのは普段訪れることがない施設ですので、夏休みには楽しい企画をして、たくさんの方の家族に来ていただきたいと思っています。

前のスライドは、リサイクル工場の方にご協力をいただきまして、リサイクルの体験をしてもらっています。実際にエコタウンの工場では、パソコンを人の手で分解して選別する工場があります。それを実際に体験しましょうということで、手で回すドライバーを片手にネジを外して分解する。分解するだけではなくて、いろいろな資源に分ける。こういうことを親子で体験していただいて、子供よりも大人が夢中になる、こういう体験ツアーも行っています。

その他、来館した皆様には、おうちで取り組める緑のカーテンやなかなか家では取り組めないエコな草刈り、山羊を1頭夏休み期間に借りまして、食べて草刈りを行う、ゴミが出ない、二酸化炭素も減らすことができる、こういう草刈りもユニークなエコということで見ていただいています。毎年夏休みを楽しみにしている御家族も多いです。

それから、エコタウンセンターを知らない方が多いので、街中に出てPRをしたいということで、今月行われるエコライフステージにも毎年出展しています。

先ほど紹介しました産業活動や市民生活を支える最終処分場の紹介や、エコタウン・次世代エネルギーパーク、ビオトープの紹介はもちろん、それから環境を楽しく学んでもらうために、エコ工作もやります。

先ほど市長が新しく紹介した「ブラックていたん」を含む「ていたん」の古紙折り紙教室も実施する予定ですので、ぜひ来ていただきたいと思います。

それから、外にばかりPRではなく、私たちも日々勉強しています。環境を皆さんに分かりやすく、楽しく、正しく伝えるために、環境首都検定を毎年受験しています。私たちも環境テキストということで、勉強のテキストにしまして、今年も団体受験をします。今のところ毎年表彰していただいておりますので、今年も表彰をいただけるようにがんばりたいと思います。私も市長と同じで、まだ100点は取ったことがありません。がんばりたいと思います。

最後です。当社主催で10月6日にイベントを行います。御家族、個人でも構いませんが、皆さんで来ていただいて参加できるイベントとなっています。

今日、封筒の中に黄色いチラシが入っていると思います。この中にはたくさんの企業が参加していただいていますけど、エコタウンの企業さんも積極的に出展していただきまして、たくさん環境について質問していただける場にもなっていますので、是非、10月6日に周りの方をお誘いのうえ、ご参加いただきたいと思います。こういう形でたくさんの方が来られることを願って、日々、見学案内しております。今日はどうもありがとうございました。

眞鍋： ありがとうございます

エコタウンセンター、響灘ビオトープが子供たちの環境学習の拠点になっていると感じました。

それでは最後に、北橋市長の講演にも北九州ESD協議会の活動についての紹介がありましたが、市内10大学が連携している取り組みにつきまして、私の方から紹介させていただきます。

「北九州まなびとESDステーション」というのが、今年の3月にオープンしました。これは文部科学省の「大学間連携共同教育推進事業」というモデル事業

に採択を受けまして、昨年度から5年間の限定ということでスタートしています。

魚町商店街の旦過寄りの中尾興産ビルがあります。その地下1階に10大学の連携拠点のキャンパスを作っています。

大きく三つの取り組みをやっています。まなびとプロジェクト、まなびとセミナー、まなびと講座です。

プロジェクトというのは実践型、学生を中心に実践型で地域の課題を解決していくことで、学生を成長させていくという新しい教育の手法になります。

それ以外にもまなびと講座、まなびとセミナー、これはESDの普及に対するいろいろな勉強を市民同士でしましようという仕組みを作って、ESDの全市民的な普及というものを目的に活動を始めたところです。非常に多くの方が来場していただいております。4月から統計をとっていますが、かなり多くの方が来ていただいております。活動には登録していただくことになってはいますが、学生が300名、社会人が150名と増えています。

ここから先は写真でこれまでの取り組みを紹介させていただきます。

3月17日に開所式を行いました。北橋市長にも来ていただきまして、市内の10大学の学長のテープカットを行って、柳井道彦（クリエーター）さんをお呼びしまして、ずっと続く未来をみんなで考えようということでやってまいりました。

さまざまな学生を中心としたプロジェクトが動いています。例えば、北九州のシビックプライドを学生から掘り起こしていこうという取り組みです。さまざまな大学の学生が関わっています。

これは西南女学院大学の先生を中心に行っていますが、健康、栄養系の学科の学生を中心に健康教室・イベントの運営を行っています。

これは九州女子大学の先生を中心に行われているものですが、科学対話プロジェクトということで、ESDに関わるいろいろなテーマを小学校に行って学生たちが授業をするという取り組みです。

それ以外にもギラヴァンツ北九州を応援しよう、全市民的な活動にしようということで取り組んでいるチームとか、コレットの上でミツバチを飼ってまして、そういったミツバチ養蜂作業です。ミツバチというのは環境共生生物と言われて、環境の良いところしか住めないということがありますので、そういったお世話を学生がしています。

それ以外にも、ご当地グルメや藍島を舞台にして環境を学ぼうというプロジェクトがあります。

それから、さまざまな講座も行われています。今日ご紹介するのは学生が中心ですが、先日、スターフライヤーさんと連携して、企業の魅力発見講座も行いました。

それから、西日本新聞社の路地裏オトナ塾ということで、18歳の高校生と80歳の高齢の方が、北九州の良いところについて語り合うという場でしたけど、そういう機会を設けたりしています。

これも9月28日、アヴァンティさんの協力を得て、女子大生と女性の生き方ということで、社会人の女性と語り合う場を設けました。

これは命の木です。RECの10月21日の会議で詳しくやりますので、是非お越しください。

グリーンバード、これは東京のNPOが発端のゴミ拾いです。皆さんで楽しくゴミ拾いをしましょうという活動を、毎週火曜日の6時半から7時半、毎週やっています。今、たくさんの方が毎週参加されています。高校生から大人まで参加をいただいております。

次に、10月17日に「カタリバ」を足立中学校で行うようになっています。このように、さまざまな取り組みを行っております。

学生を中心とした場所になりますけども、いろいろな思いを持って取り組んでくれています。もちろん、学生の成長、経験という場もありますけども、いろいろなつながりを作りたいとか、自分を成長させたいという様々な思いがこの場所に集まってきているのかなと思います。

ESDというのは低炭素社会とか、生物多様性といったものだけではなくて、やはり人づくりというのが大きいのかなと我々は感じていますので、大学という立場でこういった取り組みを推進させていただいているということです。

それでは、一人一人話がありますけども、ここで市長から感想などを聞いてみたいと思います。市長、いかがでしたでしょうか。

北橋市長： 短い時間の間に地域、企業、NPO、大学といった様々な立場で素晴らしいご活躍をされていることが、本当に短い時間の間でしたが、心強くまたうれしく思いました。改めて北九州市の市民環境力の高さというものを感じております。

OECDが世界の四つの都市を選ぶときに、なぜだろうかと考えたことがあります。パリに行くとCO2の半分は自動車から出ている。そこで、自転車を事実上無料で誰でも使えるようにしたり、電気自動車のステーションが会員になれば誰でも自由に使えるという驚くべき都市交通政策が注目されました。

スウェーデンの都ストックホルムに行きますと、誰も寄りつかないような港湾の使われていない倉庫や廃棄物が埋まっていそうなところに、実にドラマチックな、劇的な最高級の住宅都心開発を成功させています。

シカゴの場合、シカゴというとカポネという安全・安心のモデル都市のような雰囲気がありますけども、ここはオバマ大統領の出身地で、都心のビル開発が実

にエコに配慮されているということです。私は、北九州市の場合、企業の技術者を中心に、北九州国際技術協力協会(KITA カイタ)という組織を作られて、長年にわたって惜しむことなく海外の国際環境公言を続けてこられたスピリットと、やはり市民参加、パートナーシップ、こういった点が高く評価されたのではないかと、今日改めて聞いておりました。感じました。

この市民環境力を次の 50 周年に向けて、さらにこれを前進させていくことが課題だと感じております。

## 【 ②課題等について 】

眞鍋： ありがとうございます。

それでは、今回実施される北九州エコマンスですが、これは次の 50 年に向けて市民環境力というものを持続的に発展させていくことがとても重要だと、そういう話だったと思います。

今度は、それに向けての課題、様々いろいろな活動をされていらっしゃることは今お話を伺いましたが、活動される中のご苦勞も多いと思います。その部分のお話をいただきたいと思います。

特に、今日ご来場をされている方も活動されていて、なかなか活動が浸透していかないという課題意識を持っている方も多いのかなと思いますので、つながりというか、浸透という側面での課題についてお話を伺って行きたいと思います。

それでは、福丸さんからお願いします。

福丸： 衛生総連合会の課題についてですが、私たちの団体の課題は、若い世代の参加者が少ないと考えています。いろいろな環境活動する中で、参加するのは保育所の子供達、小学校、中学生、あとは 60 歳以上の高齢者ということで、中間の方々の参加が少ないと考えています。

いろいろな世代の方々に参加をしてもらうためには、それぞれの世代のつながりが必要で、今日その接点ができただのかなと思っています。これからも地域の連帯を強めていくことができると考えていますので、とにかく若い皆様がた、ぜひとも衛生総連合会のいろいろな行事に参加してほしいと思っております。以上です。

眞鍋： ありがとうございます。

50 年というと私も含めてですが、自分に関係ないと思う人も多いのかもしれませんが、そうではなくて、子供達にこの環境を残していくという意味では、今一人一人が活動していかなければいけないと感じます。

それでは、梅井さん、つながり、浸透はいかがでしょうか。

梶井：　そうですね。

市制 50 周年のように、この 50 年の中で培われてきた団体やそれぞれの歴史が、今日の発表でわかりましたが、そうやって育っていくなかで、もともとつながりがあって生まれたものが今に育ってきたと思いますけど、そのつながりを今もう一度確認すべきなのかなと思います。

横のつながりが大事だと言うのは、今までも言われてきたことですが、ではその横というのは誰なのかということ、1 個人、1 団体考えて確認して、どういうつながりが持てるのか、できるということを考えることが、この先につながるのかなと思っています。

眞鍋：　横のつながりというのは、団体間のつながりとか、団体と市民のつながり、そういうことかというイメージでしょうか。

梶井：　そうですね。

私が働く環境ミュージアムという場所や東田という場所であれば、東田地区にも 3 館、ほかに命の旅博物館とか、イノベーションギャラリーがあったり、それ以外にも東田地区でいま環境に関する取り組みが行われているので、地区で考えれば他の企業さんであったり、他の NPO、慈善団体ということで、考えられる幅は広がるわけですが、それを確認、認識することが必要なのかなと思っています。

眞鍋：　ありがとうございます。

それでは、中村さん、いかがでしょうか。

中村：　答えになっていませんが、課題ということで、自然ネットの会というのは人と人をつなぐ会ですけども、それに参加している方々を見ると、ボランティア活動に携わる人と言うのは、一つの団体ではなくて他の団体にも自分ができることを求めて複数所属したり、ボランティアノマドという方もいらっしゃいます。その方々は、各自で独自にネットワークを広げている感じがします。それを逆に考えると「やりたい」という需要はあるのだけど、受け皿が整っていないのではないかと感じるがあります。

もう一つ、先ほどの福丸会長さんの意見と同じですけども、それを持続していくためには縦のつながりが必要になってくると思います。ボランティア活動に積極的な方々というのは、高齢者の方が多くなってきているということで、活動団体として年齢が上がって行って、会の存続自体が危なくなっていくのではないかと

ということもあります。

特に、高齢者の方には「おじいさんの知恵袋」「おばあさんの知恵袋」のような感じではなくて、個別には専門性とか技術、すごい能力を持った方々がいらっしやいます。それを若い人たちにつないでいく方法は無いかなと考えています。

あと、自然環境に関わっていくボランティア活動考えたときに、無理することなく継続していくということが必要ではないかと思えます。僕も紫川でカヌーをしている団体に入っていますが、その会のモットーと言うのは、「できる人が、できることを、できるだけ」ということで、気楽に付き合っていきましょうという感じです。みなさんそういったことで臨んでいらっしやると思いますが、それをまとめていくためには、たぶん、自分たちの進む道がどうなのか、目的はどのようなのかという目的意識を持って、参加する個人の方々には個人のやりたいことに合うような情報発信していかなければいけないかと思っています。

眞鍋： ありがとうございます。「できる人が、できることを、できるだけ」というのは、非常に良いキーワードかもしれません。無理するとこういうものは続きませんので、自分が楽しくやりやすいように続けていくということが大事なのかなと感じました。

それでは、三根さんいかがでしょうか。

三根： みなさんの意見を聞いて、私達の施設の課題と言うのは、まず横のつながりというところを個人という形で見えていくと私たちの施設にはたくさんの方が来ますので、案内をすることでその人たちとはつながりを持って、市民環境力を持続させるためには案内をすることで、また来た人たちが家や会社、地域、そこであったこと、聞いたことを伝えることで広がっていくと思えます。まず個人とつながるにはエコタウンセンターに来ていただく、知っていただくということが重要になってくるので、いろいろな団体と横のつながりを持って PR できればいいと思っています。

ひびき灘埋め立て地にも響灘ビオトープや次世代エネルギーパークやその他のいろいろな展示館がありますので、協力してみなさんに来ていただきたい。

後は、若松区は、どうしても公共交通の便が悪い場所なのでなかなか来ていただくことができませんので、人気のあるというか、誰でも知っている環境ミュージアムさんに来ていただいた方がまた来てくれるような形で連携してツアーをすとか、広く北九州市全体でいろいろな地域や団体と横のつながりを持って PR できればいいと思っています。

眞鍋： ありがとうございます。



ご発表にありましたように、どの団体も思い思っで精力的に活動をされていらっしゃるということですが、それが特に若い世代に浸透していかないのはいかという問題意識、あるいは他の団体との連携がうまくいかないのではないかと、そういったお話もあったと思います。

ここで松岡局長にお聞きしたいと思います。

こういういろいろな活動されていらっしゃる方はいらっしゃいますが、これをつなぐ機会や仕組み、そういったものは北九州市としてどのように考えていますか。

松岡局長： つながりという中では、行政の場合は縦割り行政でいつも市長から怒られているのであまり得意なところではありませんが、みなさんが言われているつながり、悩みもあると思いますが、相対的にみるとどうなのかというと、私は他都市のいろいろな方々とお話をさせていただきましたが、「どうして北九州はこんなことができるんだ」と聞かれます。やはり、その原点はある意味では他の地域に比べれば、いろいろな部分の中でつながりがあります。

課題はあるにしてもつながりについては、北九州はまだまだ捨てたものではない。そこは威張ってもいいのではないかと考えています。

ただ、これからの 50 年、さらに発展を遂げていくためには、やはり会長が言われたような世代間、そういったところがもっとつながっていかなければいけない。

例えば、環境首都検定、あれはほとんどの世代の方、同じ方が同じ問題を受けています。やはり、思いは基本的に世代を超えているのだと思っています。それをいかに一つの場に集約できるのか、それを私たち行政が接着剤となってやっていく役割だろうと思っています。

まず、そのためには私たちがいろいろな団体、いろいろな世代、そういった人たちがどういう思いを持っているのかということをしっかり受け止めることが大事だと思っています。それを受け止めた上で、みんなの良いところ、思いを集約できる場をどういう形のなかで提供できるのか、そしてまた我々行政も同じパートナーの一つとして、つながりの対象の一つとして、どういうことをやっていくべきなのか、そのあたりをしっかりと今後考えていきたいと思っています。

眞鍋： ありがとうございます。

もともと北九州は青空が欲しい運動から始まって、あれだけ大きな運動に発展してきたということです。それをもう一度思い出しながら、一体感を持った活動をしていく。そこには行政のサポートをいただけるということかと思っています。

### 【 ③エコマンス及び未来に向けての抱負 】

眞鍋： それでは、今日のタウンミーティングを皮切りに、「北九州・エコマンス」として様々なイベントや国際会議が10月に開催されます。

本日議論してきた「市民環境力」の実践の場でもあります。

この期間中に実施する活動、そして今後の活動への抱負についてお聞きしたいと思います。

では、福丸さんからお願いします。

福丸： 私たちの団体は、エコマンス中に多彩な行事に参加いたします。

先程紹介いたしました6日には、市民いっせいまち美化の日を実施します。

また、17日には北九州市環境衛生大会を13時30分から戸畑市民会館で開催します。興味のある方は、是非、ご参加をお願いいたします。

また、雑紙回収グランプリを実施します。

最後に市民環境力を発信するため、19日、20日に開催のエコライフステージに19団体が出展し、取り組みなどを紹介いたします。こうした機会を通して、多くの方々、特に若い世代に当連合会の活動を知ってもらいたいと思います。

当連合会は、日々の活動を通じて若い世代の参加者を増やし、新たな50年に向けてさらに活動を広めていきたいと思っています。以上です。

眞鍋： ありがとうございます。では、梶井さん、お願いします。

梶井： 環境学習施設である北九州市環境ミュージアムにいますので、エコマンスに限らず普段から環境について取り組んでいただくということについて、いろいろな方に伝えています。

学習施設と聞くことで、子供達は沢山来てくれます。また、環境意識の高いご年配の方々もたくさん訪れてくれます。やはり、自分と同じ世代が抜けていると日々感じています。それでも、首都検定を見るように、いろいろな方が増えてきていますので、環境の街だということは市民にも定着してきたのかなと感じています。

さらには、エコマンスということで、今回大々的にやりますが、最終的にはエコマンスなんてなくなればいいといえますか、エコマンスと言わなくても環境に取り組むような街になっていくための活動を今後もやっていくつもりですので、是非、頑張っていきたいと思っています。

眞鍋： ありがとうございます。それでは、中村さん、お願いします。

中村： エコマンス期間中ですが、自然ネットの会は、自然ネットに入っている会員の方々が、先程紹介がありましたエコライフステージ 2013 が 19 日、20 日に開催されますけども、そこで日頃の活動を PR します。

また、会員さんの活動ということでは、こちらに三根さんがいらっしゃいますけども、響灘ビオトープに響灘ビオトープ愛好会というのがありますけども、愛好会の方々というのは自然サポーターという方々がなられています。響灘ビオトープは 1 周年を迎えますので、その記念行事にもおそらく参加していくと思います。

今後に向けての抱負ですが、自然ネットの会は、先程何度も言いましたように政令市にはない組織ということで、行政と企業と市民と環境をキーワードにしてつなげていく、結びつけるつなぎとして今後も活動を維持して継続していきたいと思っています。

あと、北九州市というのは他都市に比べ自然に恵まれていると言われている場所です。そこを舞台にして環境保全活動にかかわっていこうと思っているのですが、その中でも特に響灘ビオトープについてはオープンして 1 年経ちましたが、これからその場所のあり方、そういった方向性やあとは稀少種がありますが、そういったものの保存をどうするか、保護をどうするかということを考えながら、次の世代につないでいく貴重な場所として残していきたいと思っています。

残すという目線で言えば、次の世代の子どもたちに、今の自然との関わり方、遊び方も含めて、そういうものをよりよい状態で渡すことができるように、様々な市民の方々の環境力を活かして、もちろん自分も楽しみながら活動を続けていきたいと思っています。自然を相手にして活動というのは、多分、息が長くて地道な活動だと思います。特に人手も多く要る活動です。そこら辺をいい具合に自然と付き合っていきたいと思っています。

眞鍋： ありがとうございます。それでは、三根さん、お願いします。

三根： 私は、エコタウンセンターですので、今後も多くの市民の皆様が見学に訪れると思いますので、皆さんの市民環境力の向上のサポートができるような、楽しくて勉強になる、そんな環境の見学案内ができたらいいと思っています。

また、当社としましては、こういったエコタウンや最終処分場について、皆さんに PR するため、10 月 6 日に若松区のひびき灘埋め立て地でイベントを行います。第 5 回ひびきエコフェスタです。是非、多くの皆様にご参加いただき、こういった機会を通じて処分場の見学会なども行っておりますので、是非、ご参加いただきたい。そして、知って皆さんに広めていただきたいと思っています。

眞鍋： ありがとうございます。

私をご説明させていただきました「北九州まなびと ESD ステーション」、こちらでもエコマンスには参加させて頂こうと思っています。24 のプロジェクトが動いていますけども、そちらの内容をお示ししたようなパネルを展示するなどの企画を行っております。詳しくは HP を覗いていただくとお分かりになるかと思えます。

それでは、皆さんの抱負をお聞きになられて、市長から感想いただきたいと思っています。

北橋市長： それぞれのご経験、活動を踏まえて、大変貴重で情熱に燃えて頑張っているお話を聞いて、大変心強く思いました。

緑の成長という言葉は世界の共通語となりました。その成否は市民の参加、市民の環境力にかかっていると思います。行政としてもお手伝いできる場所、また PR する場所、やらねばならないことがたくさんあるということをしみじみ感じております。パネリストのみなさんや会場にお越しの皆様方とコラボをさらに強めて、是非、これからも世界の環境首都を目指す道のりを、しっかりと歩んでいきたいと考えております。

#### 【 コーディネーター 全体まとめ 】

眞鍋： 市長、ありがとうございました。

ずいぶん時間が押してまいりましたが、皆様いかがでしたでしょうか。

今日は、私も含めて 5 名の活動の発表とさせていただきます。多分、ここに来られている方もいろいろな環境に関する活動をされていると思います。

先程、松岡局長からもありましたが、もっと北九州は自信をもっていいのではないかということです。非常に多くの方がこの街のためにということで活動されている、ということをお私どもも再度自信をもっていいのかなと思います。

それから、今日再三でてきました「つながり」です。市民環境力をもつために、市民同士あるいはいろいろなステークホルダーのつながりを作っていくということが大事だということです。

先程お話ししましたが、18 歳の学生と 80 歳の高齢の方が、北九州市について語り合った。それを見ていると、今までそういう機会がなかっただけなのではないかと感じました。自然に話しましたし、どちらの方も一生懸命北九州をこうしようと、それぞれの立場でお話を熱くされていました。ですので、つながりを作るというのはそういう機会を少しずつ作っていくことではないかと思えます。

私は普段北九州大学で教員をしていますけども、今の学生は意外に「自分が何かの役に立ちたい。社会に貢献したい」という思いは強いです。私たちが思っ

いる以上に強いのかなと思っています。

ですので、こういった次の50年を作っていくために、楽しく、学生であれば勉強できる、学習できる、そういう機会をたくさん作っていけばいいのかなと、私自身感じた次第です。

それでは、時間がやって参りました。

パネリストの皆様、どうもありがとうございました。会場の皆様もありがとうございました。